

# 霜月 愛南文芸

## 篠南川柳会

「こんな」

こんなにも変れるものかプロの技 病んでみてこんな家族頼る日々 天引きがこんなにあつて四苦八苦 良い種をまくとこんなに友が出来 やる気ならこんなに上手く出来るのに こんなにも惨い殺人なげできる 現実はこのもんだと外れくじ こんなにも時の流れが早すぎる 親切がこんなにうれし老一人 子の笑顔私をこんなに勇気づけ こんなにも付いてくれたか腹脂肪 こんなにも無邪気に遊ぶ三才児	国松 幸枝 田中すみ子 松本もとお 徳岡磋津喜 松本 安子 篠原みち子 田中 保美 射場ちずる 谷口千代子 木本 清子 芝田 憲蔵 前田由紀子
里ひそと視野の果まで鯛雲 白鷺の長き思案や水澄めり アゲハ蝶遊ばせ燃える彼岸花	宮下 熊夫 小野山シマ子 村尾加都子

## はじめまして。赤ちゃん。

9月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

## ご冥福をお祈りします。

9月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

無花果を食む年寄りのえびす顔  
こわごわと荒地に落ちた栗拾う  
八朔や軒下に乾すまわしかな

長田 高明  
長田千恵美  
中川 一喜

秋晴れや園庭走る万国旗

森 早織梨

あの月の光に透けた帰り道

橋本ひかる

草紅葉新しい靴飛び上がる

吉田 彩乃

風呂の中香る向こうの焼きサンマ

川内 海月

### さわらび短歌会

外はデモ 委員会室の外相の笑いと饒舌をカメラは写す  
郵便受け新しくして初めてのたよりにランの絵はがき届く  
空高く光澄みたる秋日和耳鳴り消えて草笛を吹く  
名月は遠い記憶を手繰り寄す兎が月に住んでた頃の  
淡き花のひらきたるやうに重なりて潮溜りに水母息づく  
トンネルを抜ければ下る道添いに虎枝の花枝垂れて明かるし  
部屋の明かり消さむとしたるその刹那障子にすいと動く馬追い  
小魚は流れに添ひまた逆らひて魚の群るるに秩序あるらし  
久々の敬老会に会いし人らあたたかき和に吾も歌うたう  
急ぎけり稲穂の垂るる道の果て歩ごと逃げゆく朝の虹追い  
イケメンの案山子アロハのシャツを着て黄金の波立つ田んぼに立てり

水野美代子  
松本マス子  
澤近 正弘  
岩村千代子  
前田 知子  
扇野八代生  
前田 充  
安村寿美子  
前田 昭夫  
藤井 壘  
河上 明美

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。